



# この記事がすごい！ 毎日新聞今週のこだわり4本

2021年12月12日号

編集／毎日新聞社カスタマーリレーション本部



迫る

## 中村哲さんを支え続けて

12月12日(日)＝1、3面

アフガニスタンで医療・農業支援に取り組んでいた福岡市のNGO「ペシャワール会」の現地代表で医師の中村哲さん(当時73歳)が、武装集団の凶弾に倒れてから2年がたちました。

一方、現地事業を担う「PM S」(平和医療団・日本)支援室の室長で看護師の藤田千代子

さんは、中村さんを約30年にわたって支え続けてきました。中村さんはこの世を去ってしまいましたが「意志」は、藤田さんからメンバーに引き継がれています。

2人の現地活動を振り返りながら、藤田さんの思いに迫ります。

## 特集 ワイド

## ラサール石井さんの政治論

12月14日(火)＝夕刊特集ワイド



衆院選では小栗旬さんから人気芸能人14人が投票を呼びかける動画が話題になりました。芸能人が政治的発言をするのは長らくタブー視されてきましたが、変化の兆しがあるようです。

近年ツイッターで時の政権を批判する意見の投

稿を続けているのが「お笑い界のご意見番」ラサール石井さん(66)。「言いたいことを言って、テレビの出演番組が減るなら、仕方ないですよ」というラサールさんが政治的発言をやめない理由を語りました。



## 認知症医療の第一人者・長谷川和夫さんの足跡

## 12月16日(木) 11くらしナビ面

認知症医療の第一人者で、世界初の認知症の簡易検査法を開発した聖マリアンナ医大名誉教授、長谷川和夫さんが11月、老衰のため98歳で亡くなりました。認知症の診断に使われる認知機能検査を初

めて開発したほか、2017年には自身が認知症になったことを公表しました。長谷川さんの残したことで、認知症について改めて気づいたというものは何かを探りました。

## 論点

## 習近平は盤石か

12月15日(水)＝オピニオン面

中国共産党は11月の第19期中央委員会第6回総会(6中全会)で、党活動の成果を総括する「歴史決議」を40年ぶりに採択しました。習近平総書記の業績を列挙する内容が多

く、長期政権への地ならしをさらに進めたものとみられます。

「社会主義現代化強国」を掲げる習氏の下、中国はどこへ向かうのか。中国専門家として第一線で活躍する石川

禎浩・京都大教授と吳軍華・日本総合研究所上席理事の2人に聞きました。



## 新毎日

コードからお申し込みください。(千代崎聖史)



無観客開催に追い込まれた東京2020五輪・パラリンピックに象徴されるように、世界は2021年もコロナにほんろうされ続けました。そんな1年を振り返りつつ、新たな年を展望する「2021〜コロナが変えた世界 現場からの報告」と題したオンラインイベントをTBSラジオと共に16日夜、開催します。海外特派員らが世界の現在を報告します。QR



編集後記

